2021年度（令和3年度）

第2回福山市地域コミュニティ推進懇談会

○開催目的

「福山市地域コミュニティのあり方検討委員会」の報告を踏まえた多様な主体の取組を検証するとともに，各団体が連携，協働して地域コミュニティの再構築に向けた取組を推進するために開催しています。「人口減少時代の地域コミュニティのあり方報告書」で報告された内容について，できることから取り組んでいきます。

○委員（五十音順）

	井上　誠	地域づくり塾修了者（御幸学区）
	小葉竹　靖	福山市市民局長
	佐藤　賢一	福山市自治会連合会会長
	杉原　広昭	福山商工会議所青年部運営専務　※欠席
	道城　俊二	福山市 PTA 連合会幹事
	橋本　哲之	福山市社会福祉協議会会長
	平岡　顕治	中間支援組織（NPO 法人ひとまちスタジオ理事長）
	廣田　要	福山明るいまちづくり協議会会長
	藤井　眞弓	福山市女性連絡協議会事務局長
	古谷　輝昭	福山市老人クラブ連合会副会長
	真室　明美	福山市福祉を高める会連合会副会長　※欠席
	村田　政雄	福山市公衆衛生推進協議会副会長兼事務局長
	吉田　美砂	福山市子ども会育成協議会事務局長　※欠席
	寄髙　英樹	地域づくり塾修了者（光学区）
座長	渡邉　一成	福山市立大学都市経営学部学部長

○アドバイザー

櫻井　常矢（福山市持続可能な地域コミュニティ形成に関する政策アドバイザー
高崎経済大学地域政策学部教授）

2021年度（令和3年度）第2回福山市地域コミュニティ推進懇談会

〇日時

2021 年（令和 3 年）10 月 27 日（水）18:30～20:00

〇開催方法

オンライン開催

〇次第

1　事例紹介

福山市子ども会育成協議会での情報共有について

福山市子ども会育成協議会事務局長　吉 田 美 砂　委員（事務局代読）

2　意見交換

テーマ「地域活動を支える仕組み」

・講評
・全体を通しての質疑
・まとめ
・事務連絡

【懇談会の内容】

〇事例紹介「福山市子ども会育成協議会での情報共有について」

福山市子ども会育成協議会事務局長　吉 田 美 砂　委員（事務局代読）

子ども会としては，新しいことにチャレンジすることで，退会者を抑えたいと考えている。

これまで，子ども会では，ソフト・フットにばかり力を入れてきたが，子どもたちに広くスポーツを好きになってもらうような事業を行い，子ども会に興味をもってもらうことが，今後の会の存続に関わると考えている。子ども会では，ジュニアリーダーの活動も行っているが，「どんな活動しているか分からない」という声が，たくさん聞こえてきた。そこで子ども会に加入していない子でも，参加出来るように，全学校にお願いして，募集のチラシを配って頂き，子どもだけでなく保護者にも体験してもらえる場を作り，「誰でも参加出来る場」を拡げていきたいと思っている。活動の拡がりには，他団体の協力を得ることが大切なので，「スポーツ協会」の協力を頂き，すぐ出来るスポーツ体験もしていきたいと思っている。

これらのことを，学校を通じてチラシを配ってもらうためには，子ども会も何万枚というチラシの印刷や仕分けの作業があり，また，学校の先生方にも配布の手間をおかけしているが，今は，ギガスクールで小学生はタブレットを持っているので，紙でなく，デジタルデータで見ることができると，そのような手間や負担が軽減されると思う。ただ，学校のタブレットは教育が目的で，他団体の情報を流すのには，教育長の許可が必要など，課題があり，今は，まだ，子ども会育成協議会の情報をタブレットで流すことはお願いできていない。

一歩ずつだが，将来的にこれらの課題が解決され，役員の負担を減らしながら，子どもも保護者も一緒になって楽しく活動できるようになることをめざしていきたいと思う。

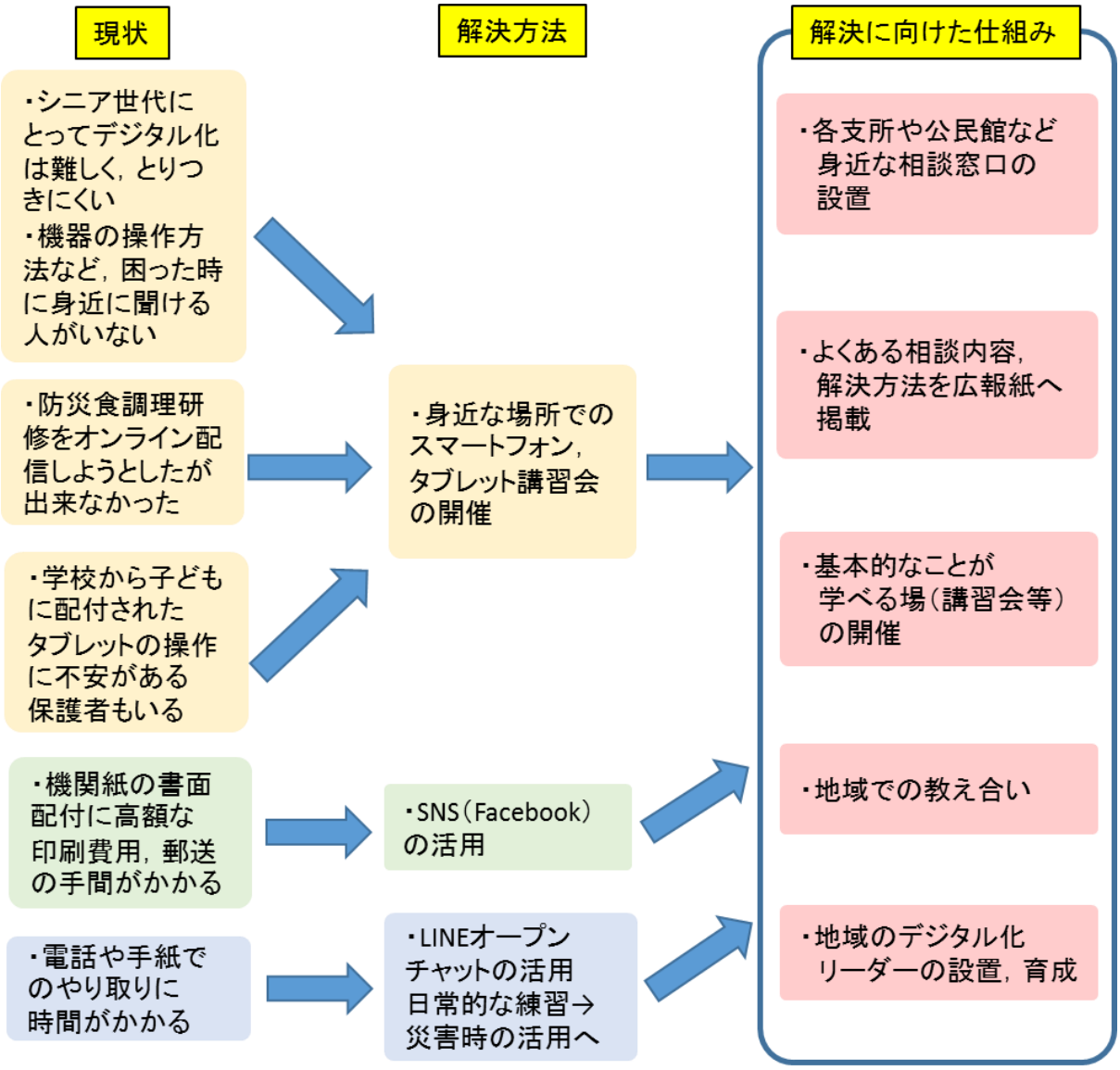
新しい事への挑戦は難しいが，学区の皆さんと協議して，挑戦して行きたいと思う。

この地域コミュニティ推進懇談会で，皆さんからの情報を共有し，今後の取り組みに活かしていきたい。

○意見交換

テーマについて，様々な分野の意見（デジタル化，自治会（町内会）の再編，担い手，対話の仕組みづくり，活動への報酬，ブロック単位での活動）が出された。その中で委員からの意見が最も多かった「デジタル化」を中心に，意見交換を行った。

【デジタル化】



○現状においては，デジタルの恩恵を受けられていない人がいる。（デジタルデバイド）
○デジタルの恩恵を受けられるようにするためには，どのような方法があるだろう？
○デジタルデバイドを解消するためには，どんなポイントがあるだろう？

デジタルデバイドとは？
情報通信技術の恩恵を受ける人とそうでない人の間に分断が生じること。情報格差。
デジタル：情報通信技術（インターネットなど）
デバイド：分断，隔たり，格差

デジタルデバイド解消に向けた考え方，ヒント

・スマートフォン，インターネットに対する恐怖感は，プライバシー設定やIDなどの大切さを認識し，理解してもらうことで解消する。
・「分からない」，「忘れた」が言える講習会，場所を提供する。
・講習会後はオープンチャットを作り，日常的に練習できる場所を提供する。
・シニア世代には「LINE」を，ママ世代には「メルカリ」など，講習参加者のライフスタイルや興味に注目し，参加者の世代に応じたプログラムを作成する。
・スマートフォンやタブレットはツールのひとつ。
　ツールを使えるようになることが目的ではなく，「人とちゃんと繋がりたい」という思いがあらゆる世代のニーズ。
・無理なくステップアップできるように誘導すると，
デジタルデバイドの解消だけでなく，日常生活に張りが出るという良い効果につながるので，少し高度な相談に対応できる体制もあると非常にいいと思う。

平 岡 顕 治 委員
（NPO法人ひとまちスタジオ）

行政におけるデジタル化の取組

■現在取り組んでいること
・ハード面：光ファイバー未整備地域の解消，公民館等公共施設へのWi-Fiの整備，公民館でのスマート鍵ボックス実証実験
（事前に鍵を受け取らなくてもいい仕組み）
・ソフト面：デジタルデバイド対策（初心者向けスマートフォン操作研修），
デジタル化に取り組む学区の支援，
公民館等での新型コロナワクチン接種オンライン予約の支援
■今後検討している取組
・オンライン申請，窓口予約システム

小 葉 竹 靖 委員
（福山市）

【行政が行う地域支援の課題】

・地域にはお金がなく，何かしようとしてもお金を融通するのが難しい。
・町内の集会所を建設する時，市に補助金を申請した。
・補助金が出たことも大きかったが，それ以上に地域では，みんなが自分たちで集会所を建てたという成果がものすごい自信に繋がった。
・そこから，リーダーではなく，地域のみんながそれぞれに地域活動に参加するといういい効果になっていることは地域として大きな意味があると感じている。
・こういった支援制度をもっと活用できればいいと思う。

井 上 誠 委員
（地域づくり塾修了者
（御幸学区））

櫻 井 常 矢
アドバイザー
高崎経済大学
地域政策学部 教授

○講評

地域づくりは３密が前提。コロナ禍で対面会議やイベントがストップした中でオンラインツールが登場したことは画期的で，新たな展開がうまれたことも事実。若手や現役世代を地域活動に巻き込んでいく上でも，オンラインを使うことは非常にいい方法だと思う。

今後の地域づくりの展開を考えるとき対面とオンラインの使い分けが大切。地域の集まりには，事実の確認や情報伝達の役割と話し合いの役割とがある。話し合いについていえば，事業の統合や廃止，組織運営の在り方，役員体制の見直しなどいわば「重い話」もある。すべてがオンラインで良いわけではなく，どのように使い分けしていくかである。また，オンラインを使えば使うほど矛盾を感じること（オンラインのパラドックス）がある。他の自治体でオンライン開催された地域づくりの活動発表会に参加したが，オンライン開催がうまくいき，大変盛り上がったのに，次回は対面で会って話しましょうとなった。

コロナ禍によって人々の孤立が深刻化しているという声もあり，公民館など無料で入れる公共施設が，そのような人がふらっと立ち寄る場になっている実態も各地にはある。公共施設に予約システムを導入してデジタル化を進めていくことは，非常にいいことでもあるが，危ういところもある。毎月，公民館の予約受付日に行列ができるという状況は，予約システムの導入で回避できるが，人と人が接する場面は減る。窓口での受付では，団体の様子が分かったり，顔を見ることで普段見ない人が来たということを確認することに意味がある。予約システムと並行して顔を合わせる仕組みを維持していかないとデジタル＝排除となることが危惧される。デジタルと対面の強み，弱みを見て，バランスを取ることが大切である。

渡邉一成　座長
福山市立大学
都市経営学部　教授

○まとめ

地域で取り組めることもあれば，行政にやってもらいたいこともあって，明確に線引きをするのは難しいと思った。その中で，デジタル化リーダーのような話は，行政で仕組みを作り，地域でできるところから実現していくという役割分担があると思う。地域の思いと行政の思いをうまくすり合わせて役割分担をすることが大事。

分からないことを地域で教え合う中で若い人も含めた新たな繋がりがうまれるのはコミュニケーションのきっかけにもなる。教える方は教える前にしっかり教えられるように自分の知識を深める機会にもなりお互いに学びが深まる。

デジタルとアナログのそれぞれのいいところをうまくハイブリッドで使っていくことがとても重要。その中でまた新たな地域の支えが生まれていくとすごくいいと思う。